

日本少年野球連盟審判委員会は、「2013年度 野球規則改正」・

「アマチュア野球内規」の運用実施を5月1日からと決定した。

(野球規則改正(1)～(10)より一部を抜粋説明)

#### A] フェア・ファウルの判定起点の変更

(1) 巻頭「フェアボール」第2図の説明を次のように改め(下線部を改正)、図を変更する。

バウンドしながら内野から外野へ越えていく場合には、一塁または三塁を基準として判断すべきであって、一塁または三塁を過ぎるときに、フェア地域内かまたはその上方空間にあった場合は、その後ファウル地域に出てもフェアボールである。

(2) 巻頭「ファウルボール」第8図の説明を次のように改め(下線部を改正)、図を変更する。

バウンドしながら内野から外野に越えていく場合には、一塁または三塁を基準として判断すべきであって、一塁または三塁を過ぎるときに、ファウル地域内またはその上方空間にあった場合は、ファウルボールである。

#### ( 解 説 )

「一塁、三塁ベースの外野側の辺とファウルラインの交差する角」を基準としていましたが、「ベース全体」が基準となります。  
従来、ベースに当たった時のみフェアでしたが、ベース上を通過してもフェアとなります。

《参考》改正前では、判定の起点は競技区画図設定上のベースの「起点」を基準にしていましたが、改正後は「キャンバス」を基準とするように改正されました。

現場の審判員としては「起点」から「キャンバス」に変更になり判定がし易くなりました。

#### B] 打者席内にいる打者に打球が当たる(2.32【注1】改正)

打者が打って走り出し「片足」打者席から完全に出た状態で、フェア打球に触れた場合は「打者走者はアウト」になると解釈変更がありました。

「片足」が打者席から出た状態とは、足が完全に打者席から出て、その足がグラウンドの地に着いている状態を指すので、足がまだ空中に浮いている場合とは違います。

#### C) 先登投手および救援投手の「規則」の改正 (3.05 (d) 新追加)

すでに試合に出場している投手がインニングの初めのフェールラインをこえてしまえば、その投手は、第1打者がアウトになるかあるいは一塁に達するまで、投球の義務がある。ただし、その打者に代打者が出た場合、またはその投手が負傷または病気のために、投球が不可能になったと球審が認めた場合は除く

継続して登板している投手について規則の追加がありました。

投手がインニングの最初に投球するため、「フェールライン」を超えてしまえば「次打者への投球義務を付する事になりました、が連盟として次のような事例について内規の審議が必要です。

事例 投手が打席に立つケース

①投手が何らかの形で、塁上に残った場合、3アウトで攻守交替になり継続して登板する際に、既にフェア地域内にいて、グラブを受け取って直接マウンドに行ったとき、投手の交代ができなくなることになる。

②投手が塁上に残って攻守交代

③監督からの投手の交代あるいは守備の変更等であり、そのような状態じに該当する投手が既にフェア地域内にいたとき等々のケース予測されます。

#### D) 投手板の踏みかた・自由な足の置き方 (8.01(a) (b) 【注】 改正等

(9) 8.01 (a) 【注1】を次のように改め、同 (b) 【注】を削除する。また、巻頭jの「投球姿勢」を変更する。

アマチュア野球では、投手の軸足および自由な足に関し、次のとおりとする。

(1) 投手は、打者に面して立ち、その軸足は投手板に触れて置き、他の足の置き場所には制限がない。ただし、他の足を投手板から離して置くときは、足全体を投手板の前縁の延長線より前に置くことはできない。

(2) 投手が(1)のように足を置いてボールを両手で身体の前方に保持すれば、ワインドアップポジションをとったものとみなされる。

#### ( 解 説 )

軸足は投手板に触れていれば、はみ出してもOKです。

アマチュアでは、投手は軸足を「投手板の側方にはみださない」ことになって

おりましたが、2008年に改正されたプロと同様、「軸足が投手板に触れていればはみ出している可」。

① Windアップポジション、セットポジションを問わず、軸足を投手板に置く又は触れておき投手板の側方からはみ出しても良くことになり「制限」は外されました。

但し「アマチュア内規で Windアップポジションとセットポジションの見分け方で「自由な足」の置き場所に制限が掛けられました。

② Windアップ・セットポジションの姿勢で、軸足の置き方についての疑問

右投手が投手板の三塁側に踵部分を浅く触れて置くケース

左投手が投手板の一塁側に踵部分を浅く触れて置くケース

規則 8・01 (a) ② 実際に投球するときを除いて、どちらの足も地面から上げてはならない。

\* 右投手の一塁に牽制した時の軸足のプレートから外れるケース

悪送球になった場合 == 野手・投手か

「アマチュア野球内規」 ※危険防止（ラフプレー禁止）ルールの追加

#### ⑦ 危険防止（ラフプレー禁止）ルール

本規則の趣旨は、フェアプレーの精神に則り、プレーヤーの安全を確保するため、攻撃側のプレーヤーが野手の落球を誘おうとして、あるいは触塁しようとして、意図的に野手に体当たりあるいは乱暴に接触することを禁止するものである。

注意：本記載における番号・図等は、本文よりの引用であります。

2013年野球規則書により確認願います。

また、野球規則改正・アマチュア野球内規については日本野球連盟及び当連盟のホームページより参照願います。

1、タッグプレーのとき、野手がボールを明らかに保持している場合、走者は（たとえ走路上であっても）野手を避ける、あるいは減速するなどして野手との接触を回避しなければならない。審判員は、

- 1) 野手との接触が避けられた
- 2) 走者は野手の落球を誘おうとしていた
- 3) 野手の落球を誘うため乱暴に接触した

と審判員が判断すれば、その行為は故意とみなされ、たとえ野手はその接触によって落球しても、走者にはアウトが宣告される。ただちにボールデッドとなり、すべての他の走者は妨害発生時に占有していた塁に戻る。なお、走者の行為が極めて悪質な場合は、走者は試合から除かれる場合もある。

2、フォースプレーのとき、次の場合には、たとえ身体の一部が塁に向かっていても、走者には妨害が宣告される。

(1) 走者が、ベースパスから外れて野手に向かって滑ったり、または走ったりして野手の守備を妨げた場合（接触したかどうかを問わない）

《走者は、まっすぐベースに向かって滑らなければならない、つまり走者の身体全体（足、脚、腰および腕）が塁間の走者の走路（ベースパス）内に留まることが必要である。ただし、走者が、野手から離れる方向へ滑ったり、走ったりすることが、野手との接触または野手のプレーの妨げになることを避けるためであれば、それは許される。》

(2) 走者が体を野手にぶついたりして、野手の守備を妨害した場合

(3) 走者のスライディングの足が、立っている野手の膝より上に接触した場合および走者がスパイクの刃を立てて野手に向かってスライディングした場合

(4) 走者がいずれかの足で野手を払うか、蹴った場合

(5) たとえ野手がプレーを完成させるための送球を企てていなくても、走者がイリーガリーに野手に向かってスライドしたり、接触したりした場合

ペナルティ (1) ~ (5) —— 1) 無死または一死の場合、妨害した走者と、打者走者にアウトが宣告される。すでにアウトになった走者が妨害した場合も、打者走者にアウトが宣告される。他の走者は進塁できない。2) 二死の場合、妨害をした走者にアウトが宣告され、他の走者は進塁できない。3) 走者のスライディングが極めて悪質な場合は、走者は試合から除かれる場合もある。

る。

3、捕手または野手が、明らかにボールを持たずに塁線上に位置して、走者の走路をふさいだ場合は、オブストラクションが厳格に適用される。

なお、捕手または野手が、たとえボールを保持していても、故意に足を塁線上または塁上に置いたり、または脚を横倒しにするなどして塁線上または塁上に置いたりして、走者の走路をふさぐ行為は、大変危険な行為であるから禁止する。同様の行為で送球を待つことも禁止する。このような行為が繰り返されたら、その選手は試合から除かれる場合もある。

ペナルティー

捕手または野手がボールを保持していて、上記の行為で走者の走路をふさいだ場合、正規にタッグされればその走者はアウトになるが、審判員は捕手または野手に警告を発する。走者が故意または意図的に乱暴に捕手または野手に接触し、そのためたとえ捕手または野手が落球しても、その走者にはアウトが宣告される。ただちにボールデッドとなり、すべての他の走者は妨害発生時に占有していた塁に戻る。(規則7・08b)

注意：本記載における番号・図等は、本文よりの引用であります。

2013年野球規則書により確認願います。

審判員が各塁でのプレイに対しての対応の実技トレーニングはどの様にするか